



「いい一日」

校長 柴 澤 明 子

宿泊体験のたびに、出掛けていく子どもたちに話をします。今年度の5年生の自然教室は、6月17日、18日。話す内容はいつも決まっています。それは、「宿泊体験を楽しいものにするかしないか。決めるのは、あなたたち自身です」と。

6月の全校朝会で、「いい一日ってなあに？」（ミーシャ・アーチャー作 BL出版）という絵本の読み聞かせをしました。

＜あらすじ＞

「いい一日をすごしてね！」おばあちゃんの家に向かうダニエルに、みんなが声を掛けてくれます。「でもいい一日って、なんだろう？」ダニエルはいろいろな人に聞いてみますが、みんな違う答えでした。ペンキを塗っているサンチェスさんに見えたら、ペンキが塗れる晴れ渡った日がいい日、いつも吠えられてしまう郵便屋さんに見えたら、犬がしっぽを振ってくれる日がいい日なのです。

おばあちゃんの家からの帰り道、ダニエルは質問をしたみんながいい一日を過ごしている姿を見ます。サンチェスさんはペンキを塗り終わって鼻歌を歌っているし、郵便屋さんは犬と仲良くなって、無事に郵便を届けられました。

家に帰ったダニエルに、お母さんはたずねます。

「ダニエル、今日はどんな一日だった？」

「すっごく いい一日だったよ。」



他の人がいい日を過ごしているのを見て、自分も“すっごくいい一日だった”と言えるダニエルは、なんて幸せなのでしょう。宿泊体験の中には、つらかったり苦しかったりすることもあるでしょう。でも、新たな体験や友達と過ごす時間を「楽しかった」と思えば、それは素敵な思い出となります。

子育ての頃、泣き止まないわが子を背中におんぶして、よく散歩をしました。眠れずに疲れ果て、家の者が帰ってくるのをひたすら待っていた日々。夕日に照らされながら、背中の子に「お日様、さよならだね。また、明日ね。ぼく、いい子で待ってるよって。」そう話しかけているうちに、（子どもも私も元気だったじゃないか、今日もいい日だった）と思え、一日が暮れていったものです。

今もその頃のことを、時々思い出します。背中で、嬉しそうに両足をピョンピョン動かしていたわが子が、頑張っていた自分が、何だかとても愛おしく、もう二度と戻ってこない時間なのだと思うと、いい一日だったと自分に言い聞かせていたことは、間違いではなかったと思うのです。

さて、私が学校から帰る頃は、角田山にちょうど夕日が沈む頃。（大鷲の子どもたちは無事に家に帰って、きっと今頃「今日もいい日だったよ」とおうちの人に話しているだろう）そう考えている時間が、私にとって「いい一日だった」と心から思える時間です。

運動会「赤白全力 目指すは優勝！」

朝からすがすがしい、さわやかな天候のもと、運動会が行われました。子どもたちは、どの子も一生懸命に走ったり踊ったりしていました。「一生懸命はかっこいい」という言葉どおり、見ている方々に感動をくれた子どもたちの一生懸命な姿でした。みんなの笑顔と一生懸命があふれた運動会になりました。

PTA 種目に参加下さいました地域・PTAの皆様、担当いただいた PTA 三役の皆様、ありがとうございました。



なかよし班苗植えをしました。

体育館脇の花壇に縦割りのなかよし班ごとに花の苗を植えました。体育館脇の花壇は、大郷コミ協高橋潤一会長から耕していただき、大郷コミュニティ協議会の協力を得て今年度も花の苗植えを行いました。各班で事前に草取りをしたり事前準備をしたり低学年の人たちに優しく苗植えの仕方を教えたりしていました。色とりどりの花が咲く縦割り班の花壇ができました。

